



東郷小だより

第 1 号
平成 29 年 4 月 14 日
東郷小学校 校長室

新学年もあいさつと 'ありがとう' で楽しい学校に😊

69 名の新入生を迎え、児童 484 名、教職員 39 名で、東郷小学校の平成 29 年度が始まりました。私たちの希望・・・健やかな成長と自立を願って！



「わたしは、この東郷小学校は、ここにいるみなさんの笑顔いっぱい、楽しい学校でありたいと思います。そのためには、まず、明るく元気なあいさつと『ありがとう』がいっぱいの学校にしたいのです。笑顔いっぱいの楽しい学校ですから、いじめは絶対に許さない。困ったら、わたしが必ずいっしょに立ち向かう。でもね、明るく元気なあいさつと『ありがとう』がいっぱいの学校ならば、いじめなんて心配ない。だって、『おはようございます』『こんにちは』『ありがとう』という言葉は、魔法のように、みなさんのまわりにいる人たちを幸せな気持ちにしてくれる。そう信じています。

5、6年生のみなさんには、もう一つ、『みんなにとって楽しい学校』となるように、物事を人任せにしないで、自分の頭で考え、正しいこと、善いこと、みんなのためになることを自ら進んで実行する。そんな東郷小学校でありたいと思います。・・・(始業式校長式辞より)



たのもしー！
・・・1年生のために教科書を運ぶ新6年生

29年度は、「元気に登校、笑顔で下校！」を合い言葉に、一人一人みんなにとって楽しい東郷小学校を目指します。昨年度同様、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

♡お世話になりました！ よろしくお願ひします♡

今まで東郷小学校を支えてくださった10名の先生方が、退職、転出されました。期間の差はあれ、卒業生を含め多くの子もたちがお世話になりました。ありがとうございました。

定年退職された山本 洋先生のお話です。「6年間お世話になりました。東郷小の子は明るく元気で、その元気さに負けないように過ごしてきた6年間だったように思います。今までありがとうございました。」



前列左から、沼田麗乃先生(出産退職)、山本洋先生(定年退職、兵庫小へ)、早川早苗先生(高嶺小へ)、河畑麻莉先生(沓掛中へ)、後列左から、鈴木奈美先生(赤池小へ)、武田光史先生(校長として音貝小へ)、安藤考司先生(兵庫小へ)、中島正己先生(音貝小へ)と辻村佳代先生(諸輪小へ)、梅田佳枝先生(スクールカウンセラー)は欠席

4月、新たに9名の先生方を迎えました。よろしくお願ひします。



前列左から、森本葉子先生(日進中より)、有馬祐子先生(スクールカウンセラー)、加古幸子先生(唐竹小より)、栗木葉摘先生(東郷中より)、後列左から、中野隆弘先生(相野山小より)、牧野英信教頭先生(長久手北中より)、平出滋之先生(大口北小より)、関根崇先生(栄中より)、永長昭彦先生(沓掛小より)

ありがとうございます

4月6日～15日は、春の交通安全町民運動期間です。現在、たくさんの方が子どもたちの登校を見守ってくださっています。日頃から子どもたちの安全に気を配っていただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

学校にみんなが集まって学ぶのは何のためか？

・・・それは、「個人の幸せ」と「社会の幸せ」のため

学校にみんなが集まって学ぶということは、一人一人が互いにかかわり合う中で様々なことを学ぶということです。教科の授業でも、一人一人が互いにかかわり合って、それぞれが成長することを学校では目指します。自分一人が答えを知るとか、自分一人が何かできるようになるのではなく、みんなで答えを見つける、みんなで答えの見つけ方を考える、友だちに分かるように説明する。私たちは、こういったことを目指して授業を進めていきます。



張り切っています…「お兄さん」「お姉さん」だね、2年生

ところで、義務教育では、「社会のために学ぶ」という視点を忘れてはいけないと思います。それは、「私たちの社会をより良い形で持続させていくための大切な担い手を育てる」という役割が、義務教育の役割の第一だと考えるからです。

人は社会生活をする動物、社会的存在と言われます。ルールを守ることで私たちの社会生活は成り立っています。「規範の尊重」は、私たちが社会生活を送る上で最も基礎となることです。個人の幸せは、安定した社会があるからこそかなうものではないでしょうか。世の中で決めたことをみんなで守り、社会生活を守ることが大切だと思います。ですから、私たちは、子どもたちが規範を理解し、それを守ることができるよう、必要なときには注意し、叱るのです。私たちは、「子どもたちが社会生活を送る上で繰り返してはいけない間違いを繰り返さないように」という思いでいるのです。

次に、人は、他の人の役に立つことによって幸せを感じる。他の人が喜ぶことによって喜びを得る。他の人に感謝されることが自分の幸せとなる。もともと、人とはそういうものなのだと思います。自分のことだけに気持ちが向いていては、幸せを感じることは難しいのではないのでしょうか。人が生きる喜びを得るためには、「役に立つ」「認められる」という経験がとても大切になると思います。まわりの人から「ありがとう」と言われる経験です。他の



地球儀を中心にグループで学習…5年生社会

人の役に立つ、他の人から認められる経験を積み重ねて「自己有用感」をもつことは、子どもの学習や働くことへの原動力にもつながると思います。

将来、社会の担い手となる子ども一人一人が、規範を理解し遵法の精神をもつこと。他の人の役に立ち、他の人から認められる経験を積み自己有用感をもつこと。学校で学ぶのは、このためだと考えています。

東郷小学校長 古田博之